



実務研修会開催報告

—「考え、発信する力」を育む学校図書館の活用—

去る8月2日、3日、昨年度に引き続き渡辺暢恵先生（東京学芸大学非常勤講師）を講師にお招きして、『「考え、発信する力」を育む学校図書館の活用』をテーマに、学校図書館支援センター主催の実務研修会を開催しました。

午前中は「わくわくする図書館づくり」の講義、午後は「探究的な学び」として、シンキングツール（仲間分けマップ、ウェビング）を使った実習をしました。夏休み中の開催とあって、先生方のご参加も多く、両日ともに活気に溢れた実り多い研修会となりました。特に、午後に行ったシンキングツールの実践場面では、司書教諭と学校司書が協力し合いながら笑顔で取り組む姿がとても印象的でした。

探究的な学習の過程において学校図書館の支援は不可欠であり、司書教諭と学校司書が連携を図ることが大切だと考えます。『調べ学習は、1が図書資料、2にタブレットです。』と言った渡辺暢恵先生の言葉が心に響きました。ぜひ、今回の学びの成果を、各学校に持ち帰りまして、今後の学校図書館運営や授業に活かしていただきたいです。



図書主任、学校司書が協力し合いながら課題（ウェビング）に挑戦！



多様な職業を皆で「仲間分けマップ」



学校図書館アドバイザーからひとこと



『私のペースで しおりは進む』は、2023年度読書週間の標語です。

終戦まもない1947年、まだ戦火の傷跡が至るところに残っているなかで「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社、取次会社、書店、公共図書館、そして新聞・放送、マスコミ機関も加わって、11月17日から第1回「読書週間」が開催されました。そのときの反響は素晴らしく、翌年の第2回目から10月27日～11月9日（文化の日を中心とした2週間）と定められたそうです。

ここ数年で電子図書や学校教育におけるタブレットの活用がすすみ、読書環境は大きく変化してきました。しかしその一方で、書店や図書館で手に取って本を選ぶ楽しさや対面でのお話会などの魅力も再認識されていると聞かれます。

神栖市立中央図書館では、この読書週間に合わせて「本のお楽しみ袋」の貸出を行います。「校内読書週間」や「読書祭り」など、児童生徒と本を繋ぐ楽しいイベントを企画している学校も多くあることでしょう。ぜひ、この機会に読書の楽しさを伝え、児童生徒が本に親しむきっかけをつくってほしいと思います。

学校図書館アドバイザー 高田 悦子



学校紹介

植松小学校

ブックトークに挑戦!...6年生

出前講座No.8「ブックトークをしてみようー実践編」後の7月14日、6年生が実際に低学年に向けてブックトークをする様子を参観させていただくことができました。

3、4人で構成されたグループは、さらに6グループに分かれ、「スポーツ」「動物」「虫」などのテーマに沿って、「テーマで繋ぐ」を意識しながら低学年児童に向けて行っていました。ところどころクイズや手書きのイラストを入れるなどの工夫も見られ、学んだことを一生懸命に活かそうと頑張る6年生の姿がとても印象的でした。聴いている1、2年生にも笑顔が溢れ、どの子も熱心に耳を傾けていました。

ブックトークを通して、異学年で素敵な時間を共有することができました。



支援センター 2学期これからの動き



配本の予定

【第3回目】

波崎方面:配本:9/6(水)→回収 10/25(水)

神栖方面:配本:9/7(木)→回収 10/26(木)

【第4回目】

波崎方面:配本:11/1(水)→回収 12/20(水)

神栖方面:配本:11/2(木)→回収 12/21(木)

定期巡回

11月・12月で1回の訪問予定

※ 各校の訪問予定は電子メールにて確認してください。

